



ARTS NPO FORUM in
AWAJISHIMA

Arts NPO Link

事業報告書

全国アートNPOフォーラム in 淡路島

2007/12/14-15-16

NPO法人アートNPOリンク 担当:樋口貞幸

〒604-8222 京都府京都市中京区観音堂町466 みやこ3F

TEL/FAX 075-231-8607 E-Mail anl@arts-npo.org



全国アートNPOフォーラムin淡路島 報告書

NPO法人アートNPOリンク 事務局 樋口貞幸

地方の時代といわれて久しくなりました。70年代に提唱されたこのコンセプトがいまだ達成されていないばかりか、地方の活性化は一層難しい状況にあります。今回会場となった洲本市もしかり、'98年明石海峡大橋の完成により、洲本市から大都市神戸まで1時間半でいけるようになりました。

「生活の利便性と経済を求めたら大都市に住んだ方がいい。」「これといった楽しみもなく、狭い田舎を出て違うところにゆきたい。」「大学で勉強するには他所に移るほかない…」

さまざまな要因により中心市街地は衰退し、若者の流出に歯止めをかけることはできません。

では、そのような地方を活性するにはどうすればいいのでしょうか？

世界的都市計画家チャールズ・ランドリーは、こう答えています。「日本の都市がビジョンを考える際のカギは、比較優位性の源泉が変化していることを明確に理解することだ。」そして、「グローバル化が進展すればするほど、ローカルな特殊性が重要になる。世界の均質化が進めば進むほど、相違点、多様性、特殊性が都市の魅力を作り出し、同時に住民をそのアーデンティティにつなぎとめる。」と。

高度経済成長期のような経済的な反映を地方が追求する時代は終わり、「マズローの欲求段階」を登りつめたその次に向かう先を明確に理解し、独自性のあるビジョンをもつことが必要だということです。つまり、地域の魅力をどのように創造していくかに尽きるでしょう。

地域の魅力といってもさまざまです。福祉が充実したまち、商業が活発なまち、水のきれいなまち、星のきれいなまち、歴史的な城下町等々… 地域の魅力は外部流入人口を増加させ、地域に外貨を落とし、消費が増えることで地域を物理的に豊かにします。しかし一番大切なことは、そこに住まう人々の気持ちが豊かであるかどうかです。

創意あふれる方法で生活の質を高め、豊かな市民社会を創出する役割を市民自らが担う時代、その役割を果たすのが市民であり、NPOです。そして、地域の魅力のタネを見つけ出し、魅力を育むためには、創造力が必要です。創造力を発揮するのは、アートが最も得意とするところです。ランドリーのいう、均質化が進めば進むほど、相違点、多様性、特殊性が魅力をつくり出すと指摘する、これら性質に最も富んでいるのもアートです。私たちアートNPOは、アートが地域の人々の心を創造的に刺激するがゆえに、地方活性の起爆剤足り得ると確信しているのです。

しかし、まだまだ私たちアートNPOにはコトバが足りません。なかんずくアートでなければならぬ！その理解を得るにはどうすればいいのでしょうか？

この度の全国アートNPOフォーラムin淡路島では、そのコトバをつくり、アートNPOの活動環境が向上するための議定書、「淡路島アート議定書！」に関する合意形成がなされました。これは、アートが地域においてどのような存在であるかをアートNPO（市民セクター）側から発言した初の議定書です。アートNPOリンクでは、今後1年をかけ議定書を完成させ、次年度の全国アートNPOフォーラムin沖縄（予定）にて正式発表し、ロビイングやアドボカシーなど、具体的なアクションを起こします。

最後に、このフォーラムを支援していただいた全ての皆様、協賛企業の皆様、洲本市の皆様にご感謝申し上げますとともに、引き続きご注目くださいますようお願い申し上げます。



フォーラムを終えて

NPO法人淡路島アートセンター 事務局 川本壮一

この度全国アートNPOフォーラムin淡路島が皆様のご協力により無事開催できたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

私たちNPO法人淡路島アートセンターは2005年の夏に始まったばかりのNPOで、会員になって数ヶ月の新米の私を事務局にしてしまうような未熟な団体です。そんなアートセンターが主催となりこのような全国規模のフォーラムを開催できるなど想像も出来ませんでした。しかし当日はアートNPO関係者のみならず、洲本市長など地元自治体の方々にもお越しいただくことができ、活気あふれる議論が展開されました。このようにフォーラムを無事終了できたのも、参加いただいた皆様はじめご協賛いただいた企業の方々のおかげです。心よりお礼申し上げます。

フォーラムでは、「淡路島アート議定書」を策定するために議論が進められましたがその最後に、「みんなで淡路島を応援しようじゃないか」と参加者の皆様が手を挙げてくださいました。この時に、アートセンターの中につかえていたものが無くなりました。これまでアートセンターにできること、アートセンターでできることを必死で模索してきましたが、それだけではなく全国の方々と協働することでもっともっと創造的で魅力的なプロジェクトができる気がしました。私達だけで悩む必要はないのだと考えられるようになりました。そんな、新しい関係を築いていく力の大きなうねりを感じた瞬間でした。

このようにフォーラムが成功できたことに、今回会場となった旧紡績工場という場所の力も大きかったように感じます。旧紡績工場は背景にある歴史、雰囲気その場にいる人の想像力を刺激する魅力的な場所です。このすばらしい場所を活用するのにも、また、これからの活動に関しても我々だけではなく皆様と協働することで自分達の想像以上の動きが出来るでしょう。

フォーラムが終わった今は全国の方々が協力してくださるという大きなサポートに感謝しつつ、同時にプレッシャーも感じています。このプレッシャーを力に変えて我々のミッションを遂行していこうと日々活動しています。今回のフォーラムでは白熱した議論の末、議定書は完成には至りませんでした。たくさんものを得ることができました。参加いただいた皆様にも何か感じるものがあったならば幸いです。次回沖縄でのフォーラムでは議定書の完成と共に、淡路島での動きを皆様に発表できればと思っています。

ARTS NPO FORUM in AWAJISHIMA

主旨

アートNPOならではの新鮮なビジョンを社会へ提案していく、ゆるやかなネットワークをめざして

今日の日本は、市民ひとりひとりが、みずから自分たちの必要とするサービスを自分たちの手で作り提供していく社会へと、変化を遂げつつあります。1998年に公布・施行された特定非営利活動促進法（NPO法）によって、この変化は着実に日本社会に広がり、ますますNPO活動の社会的重要性が増しています。

アートNPOは、市民自治の理念にもとづき、アートと社会の橋渡しを通して、幅広く領域をこえたNPOと連携し、豊かな市民社会を創出する役割を担っています。アートは社会の変化を先取りする力を持っており、アートNPOは、社会を変革する潮流において大きな力を発揮できると考えます。

「アートNPOフォーラム」では、アートという共通項のもと、活動内容や形態を異にするさまざまな全国のアートNPOが集い、公共の議論をおこなう場を設けます。そして、個々の声を集約し、アートが多様な価値を創造し、社会を動かす力を持つ、社会的な存在であるとの認識をもとに、アートNPOの意義を社会に訴え、それによってアートをめぐる環境が社会の理解を得ながら向上していくことをめざします。全国で活躍するアートNPO同士のゆるやかなネットワークを構築し、NPO活動における課題や共有化されたニーズをもとに、社会的な課題の解決に向けて開催します。

実績

参加者数	87名（登壇者、市長、来賓等含まず／実数）
参加NPO数	30団体
来場者内訳	NPO——44名 美術館・アートセンター——5名 大学職員——4名 学生——5名 社団法人——3名 一般——5名 企業——9名 国・自治体・公設財団——4名 メディア——5名 アーティスト——1名 その他・不明——2名

日時

2007年12月14日（金）、15日（土）、16日（日）

タイトル

『art protocol: 淡路島アート議定書!』

プログラム

12月14日（金）

- 15:30～15:40 開催あいさつ
- 15:40～16:25 基調講演 北川フラム氏
- 16:25～18:40 プレゼンテーション
NPO法人BEPPU PROJECT 山出淳也氏
NPO法人カコア 徳永高志氏
ナムラアートミーティング 木ノ下智恵子氏
NPO法人淡路島アートセンター 久保拓也氏
司会：田野智子氏
コメンテーター：
北沢 猛氏（東京大学教授）
布施直人氏（トヨタ自動車株式会社社長）
- 18:40～20:00 ディスカッション

12月15日（土）

- 10:00～12:00 まちあるき
- 13:00～20:00 淡路議定書をめぐる議論

12月16日（日）

- 9:00～14:00 オプションル・バスツアー

会場

旧紡績工場赤レンガ倉庫（兵庫県洲本市塩屋1-1-8）

クレジット

助成	財団法人アサヒビール芸術文化財団
協賛	株式会社資生堂 トヨタ自動車株式会社 日本電気株式会社
協力	アサヒビール株式会社
後援	淡路市 洲本市 南あわじ市 淡路観光連盟 洲本市観光協会 社団法人企業メセナ協議会
主催	NPO法人アートNPOリンク NPO法人淡路島アートセンター

ARTS NPO FORUM in AWAJISHIMA



基調講演

2007年12月14日(金)

北川フラム氏による基調講演によりフォーラムの幕があがる。地域におけるアートの役割について、的確かつ明確な表現で講演される。瀬戸内文化圏構想についても言及される。



プレゼンテーション

2007年12月14日(金)

瀬戸内海地域で活動するアート団体 4団体によるプレゼンテーション。
瀬戸内海に面した地域で活動する団体だけでも、幅広いさまざまなアート活動が展開されていることを知ることができた。
また、差異を超えて連携しながら活動していくことの重要性についても発言がある。



コメント&ディスカッション

2007年12月14日(金)

プレゼンテーションを終えて、企業の立場からトヨタ自動社の布施直人氏より、行政参与の立場から東京大学教授であり横浜市参与の北沢猛氏よりコメントをうける。市民活動の重要性と、経営感覚を養うことなどについてのコメントがある。
このあと、フリーディスカッションを開催し初日を終える。



まちあるき

2007年12月15日(土)

二日目の朝はまちあるきから。
洲本市在住の磯崎泰博氏のコーディネートにより、明治維新から大正、昭和にかけて近代産業都市・洲本市がかつて計画した100年の大計について講義をうけ、会場周辺のまちあるきを行う。
市がこのフォーラムに合わせて開催してくれた「四季のイベント」(物産展)でカレーを頂く。

ARTS NPO FORUM in AWAJISHIMA

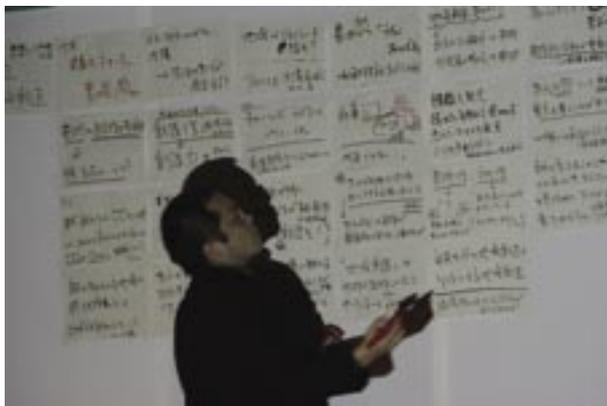


議定書をめぐるディスカッション

2007年12月15日(土)

二日目の午後、議定書をめぐるディスカッションを開催。7時間にもおよぶ白熱した議論の末、議定書の合意がなされる。

ディスカッションにあたって、ラウンドテーブル形式にして会場全体で議論をおこなった。



ファシリテーション

2007年12月15日(土)

ファシリテーターを務めた山口洋典氏。彼の卓越したファシリテーションにより、困難な議定書をめぐるディスカッションがスムーズに執り行われた。

発言の要点をメモ書きし、壁面に貼付けていく。

各セッションのまとめにはメモを見返し、発言内容を総括していく。



オプションル・バスツアー

2007年12月16日(日)

最終日の三日目は、神戸市で活動する団体がコーディネートするバスツアーを開催。

バスツアーでは、淡路島のアートシーンや食を堪能することができ、大好評だった。

なかにはこのツアーを観光事業化した方がいいという意見も。



井戸端会議

2007年5月19日(土) @ ココルーム(大阪)

今回のフォーラムにあたって、二度の井戸端会議(勉強会)を開催した。

写真は現代美術作家である、ヤノベケンジ氏、ブロード・ラ・マドレーヌ氏、コンテンポラリーダンス・コレオグラファーの砂連尾理氏をゲストに招いた井戸端会議風景。

アートNPOに対するアーティストの率直な意見が聞けた意義深い会議だった。

ARTS NPO FORUM in AWAJISHIMA

『淡路島アート議定書!』

※完全版は、2008年夏に発表予定

はじめに

今日の日本は、市民ひとりひとりの自発性に基づき、市民が相互に連携し、社会の課題解決のため必要とするサービスを自らの手で作り提供していく社会へと、変化を遂げつつあります。政府や行政組織だけではなくNPOを含めて、公益的なサービスを担う「新しい公共」の考え方が生まれてきています。こうした新たな市民社会(Civil Society)を形成する動きのなか、アートNPOのネットワークはこれまでに6回の『全国アートNPOフォーラム』を開催してきました。そこでは、芸術文化においても市民自らが主役であること、社会における芸術文化の役割をとらえ直し豊かな市民社会の創出に芸術文化が必要不可欠であること、そして「新しい公共」という社会変革の潮流においてアートNPOが大きな力を発揮できることを確認しました。

全国アートNPOフォーラムin淡路島(2007年12月15日)は、これまでのアートNPOフォーラムを総括し、個々のアートNPOが掲げるミッションの底流に流れる意識を共有したうえで、アートNPOの活動現場における現状認識から出発し、社会変革のうねりを促す芸術文化の基盤整備に関する『淡路島アート議定書!』を発表します。

NPOは、それぞれの団体が掲げるミッションを実現することを目的に活動しています。NPOには、それぞれのミッションを達成するための事業を実施するだけでなく、事業を遂行するための制度づくり、社会の各層に対して活動の意義を説明し、賛同者、支援者を増やしていくこと、さらには基盤整備のための提案が求められています。

また、芸術文化をとりまく環境は、社会の構造や制度と互いに密接に結びついています。したがって、アートNPOの遂行する事業やその提案、既存制度の課題に対する解決策の提案は、場合によっては既存の利害や権益と矛盾や軋轢を生じ、その先駆性・先見性のために、ただちに理解されない場合もありえるでしょう。

アートNPOは、地域や現場に即した活動を推進する中から議論し共有してきた、本「議定書」の目標や提言が、芸術文化の振興に携わる幅広い機関や当事者にとって、活用できるものであることを目指してきました。特に全国で活動するアートNPOが地域における政策立案等に活用いただけることを望み、広く社会にポジティブな波紋を引き起こすことを願っています。

1. 市民が主体的に芸術に参画する領域を拡大する

2. 芸術文化こそ地域創造の切り札に

3. アートNPOの経営強化と、 芸術文化支援制度の効果的な改革を

4. アートNPOのネットワークが果たす役割

全国アートNPOフォーラムin淡路島

2007年12月15日

淡路島

ARTS NPO FORUM in AWAJISHIMA

報道実績

<新聞>

読賣新聞 淡路版	2007年12月15日
神戸新聞	2007年12月24日
朝日新聞 夕刊 関西版	2008年1月24日
朝日新聞 夕刊 関西版	2008年2月28日

<その他>

NPOジャーナル vol.20 (NPO法人関西国際交流団体協議会)

報告書「全国アートNPOフォーラムin淡路島」

発行・編集

NPO法人アートNPOリンク
京都市中京区観音堂町466 みよこ3F
TEL & FAX 075-231-8607
E-mail anl@arts-npo.org

2008年3月4日

無断転載を禁じます